

年税 第39号
平成23年8月18日

都道府県医師会 担当理事 殿

日本医師会 常任理事
三上 裕司

成長分野等人材育成支援事業の拡充について

成長分野等人材育成支援事業の拡充について、厚生労働省職業安定局雇用政策課長、雇用開発課長より、平成23年7月26日付の文書が発出されておりますので、ご参考までにお知らせいたします。

今回は、震災による被災者（新規学卒者を含む）等を新規雇用・再雇用した中小企業事業主が、その労働者に職業訓練（OJTを含む）を行う場合に奨励金の支給対象とする旨が発表されております。

本件に関するお問い合わせ先は全国の労働局及びハローワークとなります。
なお、当該パンフレット等は、厚生労働省のホームページ〈トップページ→政策について→各種助成金・奨励金等の制度→事業主の方への給付金のご案内（総合案内）→東日本大震災による被災者を雇用または再雇用し、その方の能力を高めたいときは（成長分野等人材育成支援事業の拡充）

<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/josei/kyufukin/g-top.html>より、ご覧いただけます。

〔別添資料〕

- 成長分野等人材育成支援事業の運営について
(平成23年7月26日 厚生労働省職業安定局 雇用政策課長 雇用開発課長)
- 「被災者を雇い入れたり、再雇用して職業訓練を行う中小企業事業主の皆様を応援します！」
(パンフレット、リーフレット)

職政発0726第1号
職開発0726第1号
平成23年7月26日

各都道府県労働局
職業安定部長 殿

厚生労働省職業安定局
雇用政策課長
雇用開発課長
(公印省略)

成長分野等人材育成支援事業の運営について

本日、「成長分野等人材育成支援事業関係業務実施要領の一部改正について」（平成23年7月26日付け職発0726第1号及び能発0726第3号。以下「改正要領」という。）が各都道府県労働局長あて通達されたところであるが、その運営に当たっては、下記に留意の上、遺漏なきよう期されたい。

記

- 1 東日本大震災による被災者を新規雇用・再雇用した中小企業事業主への支給
東日本大震災による被災地の復旧・復興のため、中小企業事業主が以前雇用していた労働者を再雇用し、以前とは異なる職種や職場環境で就業させる場合又は被災離職者等を新たに雇い入れた場合において、当該対象労働者にOff-JT及びOJTによる職業訓練を実施した場合に、業種を問わず奨励金を支給することとしたこと。
- 2 職業訓練計画について
 - (1) 「支給対象訓練は、労働者の所定労働時間内に実施される訓練が、原則として総訓練時間数の3分の2以上」であることを要件として求めていたところであるが、休日等を実施される訓練も受けやすくすることにより、支給対象訓練の高度化・制度活用を促進するため、当該要件を廃止することとしたこと。
なお、事業主は、所定労働時間外の訓練について、必要に応じて休日の振替や手当等の支給による対応を行うこととなること。
 - (2) 職業訓練計画の実施期間を原則1年としているところであるが、休日等を実施される訓練を受講すること等により支給対象訓練を行う期間の短縮が図られることから、支給対象訓練に必要な時間数が確保される場合、職業訓練計画の実施期間を6ヵ月以上とすることができることとしたこと。

- (3) 職業訓練計画は、遅くとも平成 23 年度末までに開始することを要件として求めていたところであるが、当該要件を平成 23 年度末までに受給資格認定申請書を提出し、当該提出日から 6 ヶ月以内に訓練を開始することを求めることに変更したこと。

2 経過措置について

- (1) 改正要領の施行日以後に提出される職業訓練計画は、改正要領の内容を踏まえたものとする。
- (2) 既に認定を受けた職業訓練計画のうち、改正要領の施行日以後に実施される訓練コースの日程・内容等を変更して実施することに伴う職業訓練計画の変更は、可能とすること（平成 23 年度後期より支給申請が行われることとなる。）。
- (3) 改正要領の施行日以後に新たに提出される職業訓練計画であっても、既に終了した訓練コースを含めて提出することはできないこととする。
- (4) 既に事業主から提出された様式については、今回の改正に伴う様式の修正は要さないこと。

3 関係事業主への周知

- (1) 周知に当たっては、別添リーフレット及びパンフレットを印刷（両面）して、配布することにより行っていただきたいこと。
また、周知に当たっては、関係自治体や事業主団体に協力を求める等により、助成対象となりうる事業主にもれなく周知されるようにできる限り工夫を行うこと。
- (2) 別添リーフレット及びパンフレットは、厚生労働省ホームページにも掲載していること。

4 報告様式の改正について

報告様式を別紙様式「成長分野等人材育成支援事業実施状況報告」に改正すること。
また、報告書の提出先に雇用開発課担当者を加えること。
なお、本様式による報告は、平成 23 年 7 月の実績から開始することとし、「当月までの累計」欄は平成 22 年 1 1 月からの累計を記載すること。

【担当】

(成長分野等に係る支給に関すること)
雇用政策課介護労働対策室 高野、矢形

(東日本大震災に係る支給に関すること)
雇用開発課雇用管理係 松村、永沢

被災者を雇い入れたり、再雇用して職業訓練を行う 中小企業事業主のみなさまを応援します!

- **成長分野等人材育成支援事業**(※)を拡充し、**東日本大震災による被災者を新規雇用・再雇用した中小企業事業主が、その労働者に職業訓練を行う場合は、業種を問わず訓練費を助成**します。

※ 健康、環境分野および関連するものづくり分野において、期間の定めのない従業員を雇い入れ、または他の分野から配置転換し、**Off-JT**(通常の業務を離れて行う職業訓練)を実施した事業主に対して、訓練費用の助成を行う制度

- **労働者に仕事をさせながら訓練を行うOJTも助成対象になります。**

支給対象事業主の主な要件

1. 雇用保険の適用事業主であること
2. 次の①または②に該当する中小企業事業主であること
 - ① 青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉、新潟、長野の各県のうち、災害救助法適用地域(以下「特定被災地域」)に所在し、以前雇用していた労働者を再雇用(※1)し、以前とは異なる職種や職場環境の下で円滑に就業させるために、Off-JTのみ、またはOff-JTとOJTを組み合わせた職業訓練を行う事業主であること
 - ② 新規に雇い入れた被災離職者等(※2)に、Off-JTのみ、またはOff-JTとOJTを組み合わせた職業訓練を行う事業主であること

※1 以前に雇用していた労働者で、平成23年3月11日以降同年7月10日までの間に離職した人を、雇用期間の定めのない労働者として再び雇い入れる場合をいいます。(雇用保険の特例により休業していた労働者を復職させる場合を含みます)

※2 以下の(1)または(2)に該当する人をいいます。

(1) 平成23年5月1日以前に雇用期間の定めのない労働者として雇い入れた労働者であり、以下の①～③の全てに当てはまる人

- ① 東日本大震災発生時に特定被災地域において就業していた
- ② 震災後に離職し、その後安定した職業についたことがない
- ③ 震災により離職を余儀なくされた

(2) 特定被災地域に居住する平成24年3月以降卒業予定の新規学卒者

支給額・支給対象となる訓練コース・手続きについては、
裏面をご覧ください。



支給対象となる職業訓練計画・職業訓練コース

職業訓練コースとは、訓練目標ごとに設定される一連のカリキュラムのことです。助成金の支給を受けるには、1つ以上のコースから成る職業訓練計画を作成していただきます。職業訓練計画は、以下の要件を満たすことが必要です。

1. 新たに配属した職種・部門の業務に関する訓練であること
2. 1コースの訓練時間が**10時間以上**であること
(助成対象の上限は、対象労働者1人当たり3コース)
3. 職業訓練計画の実施期間が、原則**1年**であること
(ただし、必要な時間数が確保される場合には、6カ月以上)

◆OJTによる職業訓練を行う場合、以下の要件を満たすことが必要です。

- ① 対象労働者の職業訓練計画全体を通じて、少なくとも1コースにはOff-JTによる訓練が含まれていること
- ② 専門的な知識、技能を有する指導員・講師により行われるものであること
- ③ OJTによる職業訓練の時間数が、訓練計画全体の総時間数の9割以下であること

支給額

Off-JTについては事業主が負担した訓練費用を、OJTについては対象労働者1人につき1時間あたり600円を助成します。

(1コース当たりの上限は、合計**20万円**(※) 1人当たり**3コース**まで)

※ 大学院をOff-JTで利用した場合には、50万円を上限とします。

受給手続き

職業訓練計画を作成し、労働局またはハローワークに提出

労働局またはハローワークが職業訓練計画を認定

職業訓練計画に基づき訓練を実施

訓練終了後、2カ月以内にハローワークに支給申請し、受給

職業訓練計画の審査には時間がかかりますので、訓練開始1カ月前までに申請してください。

【注意事項】

この奨励金は、「キャリア形成促進助成金」など職業訓練を対象とする他の助成金と同一の事由で同時に支給を受けることはできませんので、ご注意ください。

◆詳細は、最寄りの都道府県労働局またはハローワークへお問い合わせください。

被災者を雇い入れたり、再雇用して職業訓練を行う 中小企業事業主のみなさまを応援します!

- **成長分野等人材育成支援事業** (※) を拡充し、**東日本大震災による被災者を新規雇用・再雇用した中小企業事業主が、その労働者に職業訓練を行う場合は、業種を問わず訓練費を助成**します。

※ 健康、環境分野および関連するものづくり分野において、期間の定めのない従業員を雇い入れ、または他の分野から配置転換し、**Off-JT** (通常の業務を離れて行う職業訓練) を実施した事業主に対して、訓練費用の助成を行う制度

- **労働者に仕事をさせながら訓練を行うOJTも助成対象になります。**

支給対象事業主の主な要件

1. 雇用保険の適用事業主であること
2. 次の①または②に該当する中小企業事業主であること
 - ① 青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉、新潟、長野の各県のうち、災害救助法適用地域に所在し、**以前雇用していた労働者を再雇用し、以前とは異なる職種や職場環境**の下で円滑に就業させるために、Off-JTのみ、またはOff-JTとOJTを組み合わせた職業訓練を行う事業主であること
 - ② **新規に雇い入れた被災離職者等**に、Off-JTのみ、またはOff-JTとOJTを組み合わせた職業訓練を行う事業主であること

支給要件の詳細については、3ページをご覧ください。

支給額

- Off-JTについては**事業主が負担した訓練費用**
- OJTについては**対象労働者1人につき1時間当たり600円**を助成します。

職業訓練1コース当たりの上限は、合計**20万円** (※)、1人当たり**3コース**まで助成対象になります。

※ 大学院をOff-JTで利用した場合には、50万円を上限とします。

支給対象となる職業訓練については、2ページをご覧ください



職業訓練コース・職業訓練計画

職業訓練コースとは、訓練目標ごとに設定される一連のカリキュラムのことです。助成金の支給を受けるには、あらかじめ1つ以上のコースから成る職業訓練計画を作成していただきます。職業訓練計画は、Off-JTだけでなくOJTを含めることができ、以下の要件を満たすことが必要です。

1. 対象労働者ごとに作成した訓練計画であること
2. 新たに配属した職種・部門の業務に関する訓練であること
3. 1コースの訓練時間が**10時間以上**であること
(助成対象の上限は、対象労働者1人当たり3コース)
4. 職業訓練計画の実施期間が、原則**1年**であり(※)、遅くとも平成23年度末までに受給資格認定申請を行い(3ページ参照)、その日から**6カ月以内に訓練を開始するものであること**
※ 必要な時間数が確保される場合には、6カ月以上

◆OJTによる職業訓練を行う場合、以下の要件を満たすことが必要です。

- ① 対象労働者の職業訓練計画全体を通じて、少なくとも1コースにはOff-JTによる訓練が含まれていること
- ② 専門的な知識、技能を有する指導員・講師により行われるものであること
- ③ OJTによる職業訓練の時間数が、訓練計画全体の総時間数の9割以下であること

支給対象となる訓練コース

◆対象労働者を新たに配属した職種・部門の業務に関する訓練であれば広く支給対象コースとなります。**対象外**となるものの具体例は以下のとおりです。

【支給対象外となるもの】

- ① 趣味教養を身に付けることを目的とするもの
(例：日常会話程度の語学の習得のみを目的とする講習、話し方教室 など)
 - ② 職業または職務の種類を問わず、職業人として共通して必要となるもの(※)
(例：接遇・マナー講習等社会人としての基礎的なスキルを習得するための講習 など)
 - ③ 実施目的が訓練に直接関連しない内容のもの
(例：時局講演会、研究会、大会、学会、研究発表会、博覧会、見本市、見学会 など)
- ※ 対象労働者が新規学卒者の場合は、②の訓練は支給対象となります。

支給対象となる訓練経費

【Off-JT】

● 事業所内訓練

- ① 外部講師(社外の者に限る)の謝金・手当
(所得税控除前の金額。旅費・車代・食費・宿泊費などは対象外)
- ② 施設・設備の借上料
(教室、実習室、マイク、ビデオなど、訓練で使用する備品の借料で、支給対象コースのみに使用したことが確認できるもの)
- ③ 学科または実技の訓練を行う場合に必要な教科書などの購入または作成費
(支給対象コースのみで使用するもの)

● 事業所外訓練

受講に際して必要となる入学料、受講料、教科書代など

(独立行政法人雇用・能力開発機構の職業能力開発施設が実施している訓練の受講料および都道府県から「認定訓練助成事業費補助金」を受けている認定訓練の受講料は支給対象外)

【OJT】 OJT 1時間当たり600円

支給対象となる事業主の要件

この制度では、**1. 職業訓練計画を作成して認定を受けるとき**、職業訓練計画に基づいて訓練を実施した後に、**2. 支給申請するとき**、の計2回、都道府県労働局またはハローワークで以下の要件を確認します。

1 職業訓練計画の認定を受けるとき（受給資格認定申請）

(1) 次の①または②に該当する中小企業事業主であること

- ① 青森、岩手、宮城、福島、茨城、栃木、千葉、新潟、長野の各県のうち、災害救助法適用地域（以下「特定被災地域」）に所在し、**以前雇用していた労働者を再雇用し**（※1）、**以前とは異なる職種や職場環境**の下で円滑に就業させるために、Off-JTのみ、またはOff-JTとOJTを組み合わせた職業訓練を行う事業主であること
- ② **新規に雇い入れた被災離職者等**（※2）に、Off-JTのみ、またはOff-JTとOJTを組み合わせた職業訓練を行う事業主であること

※1 以前に雇用していた労働者で、平成23年3月11日以降同年7月10日までの間に離職した人を、雇用期間の定めのない労働者として再び雇い入れる場合をいいます。（雇用保険の特例により休業していた労働者を復職させる場合を含みます）

※2 以下の（1）または（2）に該当する人をいいます。

（1）平成23年5月1日以前に雇用期間の定めのない労働者として雇い入れた労働者であり、以下の①～③の全てに当てはまる人

- ① 東日本大震災発生時に特定被災地域において就業していた
- ② 震災後に離職し、その後安定した職業についたことがない
- ③ 震災により離職を余儀なくされた

（2）特定被災地域に居住する平成24年3月以降卒業予定の新規学卒者

(2) **一定の要件を満たした職業訓練計画（2ページ参照）を作成していること**

◆そのほか、以下のことも確認します。

- ㊦ 雇用保険の適用事業主であること
（民間の事業者のほか、公益法人、NPO法人、医療法人、社会福祉法人等も含みます）
- ① **職業能力開発推進者を選任**し、都道府県職業能力開発協会に選任調べを提出していること
（選任していない場合は、受給資格認定申請の際に選任してください）

2 支給申請するとき

(1) 受給資格認定を受けた職業訓練計画に基づき、訓練を実施したこと

(2) 受給資格認定の申請日の前日から起算して6カ月前の日から支給申請日までの間に、**事業所で雇用する雇用保険被保険者を、事業主都合により解雇**（※）していないこと

※ 天災その他やむを得ない理由のため事業の継続が不可能（事業の一時休止を含む。）となったことまたは労働者の責めに帰すべき理由による解雇は除きます。

◆そのほか、以下のことも確認します。

- ㊦ 支給申請の前々年度より前のいずれかの保険年度に、**労働保険料を滞納していないこと**
- ① 受給資格認定の申請日から起算して3年前から支給申請日までの間に、他の奨励金などを**不正受給していないこと**。支給申請日から起算して3年前から支給申請日までの間に、**労働関係法令の違反を行っていないこと**
- ㊦ 対象労働者の雇い入れ、または成長分野等以外の分野からの配置転換を行った事業所で、支給決定などに必要な書類を整備・保管していること

受給までの流れ

① 受給資格認定申請

職業訓練計画を作成し、必要書類とともに労働局またはハローワークに提出

職業訓練計画の審査には時間がかかりますので、**訓練開始1カ月前までに申請**してください

② 認定

労働局またはハローワークは、職業訓練計画を認定（または不認定）し、事業主に通知

[認定の場合]

職業訓練の開始

③ 訓練実施

計画期間は原則1年（必要な時間数が確保される場合には、6カ月以上）。平成23年度末までに①の認定申請を行い、その日から6カ月以内に訓練を開始してください。

職業訓練の終了

訓練計画期間終了後**2カ月以内**に必要な書類をそろえ、支給申請してください

④ 支給申請

労働局またはハローワークに支給申請

⑤ 支給決定

中央職業能力開発協会から事業主に支給（または不支給）決定通知書を送付。
支給決定額を振込（支給決定の場合）

1. 受給資格認定申請手続きに必要な書類

- ① 成長分野等人材育成支援奨励金受給資格認定申請書(様式第1-2号)
- ② 成長分野等人材育成支援奨励金職業訓練計画(訓練コース)(様式第2-3号)
- ③ 職業能力開発推進者選任調べ(写)
- ④ 雇用保険適用事業所設置届(写)
- ⑤ 中小企業事業主であることを確認する書類(登記事項証明書、資本金および労働者数を記載した資料等)

〔 以下の書類については、対象労働者をまだ雇い入れていない場合などで受給資格認定時に提出できない場合は、支給申請時に添付してください。 〕

◆ 東日本大震災により被災した事業主が対象労働者を再雇用した場合

- ・ 労働条件等申立書(様式第8号)
- ・ 雇用契約書または雇入れ通知書(写)
- ・ 対象労働者が当該事業所において以前に雇用されていたことを確認できる書類
(雇用契約書、労働条件通知書、出勤簿、賃金台帳等。対象労働者が雇用保険被保険者として雇い入れられていた場合は不要)
- ・ OJT担当講師の経歴書(OJTを実施する場合のみ)

◆ 震災による離職者を雇い入れた場合

- ・ 労働条件等申立書(様式第8号)
- ・ 雇用契約書または雇入れ通知書(写)
- ・ 対象労働者が震災により離職を余儀なくされたものであることが確認できる疎明書
(様式第15号。雇用保険未適用事業所の離職者である場合のみ)
- ・ 対象労働者からの疎明書
(様式第16号。雇用されていた事業所が既に廃止されたことなどにより、様式第15号の添付が困難である場合のみ)
- ・ OJT担当講師の経歴書(OJTを実施する場合のみ)

◆ 震災により被災した新規学卒者を雇い入れた場合

- ・ 労働条件等申立書(様式第8号)
- ・ 雇用契約書または雇入れ通知書(写)
- ・ 対象労働者の震災時の住所について確認できる書類
- ・ 卒業証書(写)または卒業証明書
- ・ OJT担当講師の経歴書(OJTを実施する場合のみ)

※必要に応じて、その他の書類の提出または提示をしていただくことがありますので、ご協力をお願いします。

2. 支給申請手続きに必要な書類

- ①成長分野等人材育成支援支給奨励金支給申請書(様式第6-2号)
- ②成長分野等人材育成支援奨励金申請額内訳(様式第7-3号)
- ③受給資格認定通知書(写)
- ④Off-JTの実施内容などを確認するための書類 (目的、内容、実施期間、場所などが分かる書類 [事前に対象者に配布したもの] やカリキュラムなど)
- ⑤Off-JTに要した経費などを確認するための書類
 - ◆事業所内でOff-JTを実施した場合
 - ・ 外部講師(社外の者に限る)の謝金・手当(所得税控除前の金額)を支払ったことを確認するための書類 (講師の略歴、領収書 など)
 - ・ 施設・設備の借上料を支払ったことを確認するための書類
 - ・ 学科または実技の訓練を行う場合に必要な教科書・教材の購入・作成費を支払ったことを確認するための書類(品名、単価、数量を明記した領収書 など)
 - ・ 訓練の受講者数を確認するための書類
 - ◆事業所外でOff-JTを実施した場合
 - ・ 受講に際して必要となる入学料・受講料・教科書代などを支払ったことを証明するための書類(領収書、受講料の案内 など)
 - ・ 訓練の受講者数を確認するための書類
- ⑥Off-JT実施状況報告(様式第7-4号)
- ⑦OJT実施状況報告(様式第7-5号)
- ⑧5ページの◆に掲げる書類のうち、受給資格認定申請時に提出していないもの

※必要に応じて、その他の書類の提出または提示をしていただくことがありますので、ご協力をお願いします。



ご注意



- この奨励金は、1年間の職業訓練終了後、支給申請を行い、支給決定を受けた場合に支給されるものです。支給申請書などの内容によっては、審査に時間がかかることがありますので、あらかじめご了承ください。
- 支給対象となる訓練経費に対して、他の助成金等を受けている場合は、この奨励金を受けることはできません。他の助成金の支給申請を行っている場合は、どちらか一方を選択していただくこととなります。
- 不正受給は犯罪です。偽りその他不正行為により本来受けることのできない奨励金の支給を受け、または受けようとした場合、奨励金は不支給、または支給を取り消します。この場合、すでに支給した奨励金は、全部または一部の返還が必要です（年5%の利息を加算）。
- この奨励金は国の助成金制度の一つですので、受給した事業主は国の会計検査の対象となることがあります。対象となった場合はご協力をお願いいたします。また、関係書類については、5年間保管してください。

詳しくは、最寄りの都道府県労働局またはハローワーク（公共職業安定所）におたずねください。

被災者を対象とした訓練コースの例

以前雇用していた労働者を再雇用した場合

事例1： 水産食料品製造業の事業所が、以前雇用していた労働者を離職前と同じ職種で再雇用するが、全壊した事業所を建て替えて鮮魚の加工ラインに最新設備を導入したため、仕事の段取りが震災前とは変わっている場合

コースA (Off-JT) : 安全衛生管理講習

コースB (OJT) : 水産物加工処理作業、商品の品質検査、作業工程管理、機器運転

事例2： 以前製造部門に従事していた労働者を同じ職種で再雇用するが、新たに生産管理業務にも従事させる場合

コースA (Off-JT) : 在庫管理・品質管理基礎講習 (生産計画立案の方法、在庫管理の方法、品質管理の方法)

(OJT) : 生産管理実習 (生産計画の立案、発注業務、棚卸業務、品質管理)

事例3： 以前水産加工部門に従事していた労働者を再雇用し、販売部門に従事させる場合

コースA (Off-JT) : 販売基礎講習 (接客手法、製品の知識)

(OJT) : 販売実習 (接客対応、包装、陳列、レジ操作、クレーム対応)

コースB (Off-JT) : OA基礎講習 (売上データ入力方法)

(OJT) : OA実習 (売上データ処理)

コースC (Off-JT) : ショッピングサイト運営管理講習 (受注から商品発送までの処理の注意点等)

(OJT) : ショッピングサイト運営管理実務 (受注処理、メール送信等)

被災者を対象とした訓練コースの例

被災離職者を新たに雇い入れた場合

事例4：被災地域で旋盤を使った簡単な部品加工に従事していた労働者を、別の事業者が新たに雇い入れ、汎用機の操作について技能を習熟させ、精度の高いより複雑な加工に従事させる場合

- コースA (Off-JT) : 実習 (製図、測定、仕上げ)
(OJT) : 切削加工作業
- コースB (Off-JT) : 旋盤実習 (穴開け、ねじ切り)
(OJT) : 切削加工作業
- コースC (Off-JT) : 旋盤実習 (段削り、外径・内径削り)
(OJT) : 切削加工作業

事例5：被災地域でホームヘルパー(2級)をしていた労働者を、老人福祉施設を営む事業者が新たに雇い入れ、ホームヘルパー1級の資格を取得させる場合

- コースA (Off-JT) : ホームヘルパー1級養成研修の受講
- コースB (OJT) : ホームヘルパー1級取得後の実務 (訪問介護計画の策定、ホームヘルパーの育成指導等)

事例6：被災地域で漁業に従事していた労働者を、運送業を営む事業者が新たに雇い入れ、倉庫内業務に従事させていたが、新たに輸配送業務に従事させる場合

- コースA (Off-JT) : 荷扱いの基本動作 (荷扱いの基本動作、事故処理マニュアルに基づく事故・トラブル時の対応等)
(OJT) : 輸配送補助業務 (ルートのご案内、荷役の補助、荷室の整理、伝票整理等)
- コースB (OJT) : 輸配送作業 (運行前点検、貨物の積み付け、固縛、輸配送作業、積み卸し、機器操作、日報作成等)